

市民がつくる環境都市こまき



こまき環境広報

編集：こまき環境市民会議

～小牧市内の小学生による水生生物調査～



水生生物調査とは？

水生生物調査とは、川に生息する水生生物の種類と数を調べることで水の汚濁状況を判定するものです。小牧市では、市内の小学校4年生のみなさんに協力いただき市内の河川で調査を行っています。

今回は令和7年5月19日（月）に大山川で行われた、本庄小学校4年生のみなさん82名による水生生物調査の活動報告をお届けします。



調査方法

水生生物調査では、29種の生き物が指標生物として選ばれています。川の中に、棲んでいる生き物の種類と数から、川の水のよごれの程度が4つの階級のどの段階なのかがわかります。

小牧市では本庄小の他に米野小、光ヶ丘小、篠岡小、大城小、小牧原小の6校で調査をしています。市環境対策課が主体となり、小牧市自然環境観察人、住友理工株式会社などがサポートし、行政・市民団体・企業が協働して実施しています。

生き物を使って水質を判定する方法を

「生物学的水質判定」といいます。

判定に使う生き物を「指標生物」といいます。

水質階級	水質	種類数	指標生物
水質階級Ⅰ	きれいな水	10	ナミウスズミシ、カワゲラ類、サワガニ、ヘビトンボなど
水質階級Ⅱ	ややきれいな水	8	イシマキガイ、オオシマトビケラ、カワニナ類、ゲンジボタルなど
水質階級Ⅲ	きたない水	6	タニシ類、ミズカマキリ、ミズムシ、シマイシビルなど
水質階級Ⅳ	とてもきたない水	5	アメリカザリガニ、サカマキガイ、エラミズなど

引用：環境省「全国水生生物調査のページ」



大人のサポートを受け、みんなで協力しながら水生生物を採取しました



水生生物調査についての説明を受ける子どもたち



調査結果

子どもたちの調査によると、「きれいな水：水質階級Ⅰ」から「きたない水：水質階級Ⅲ」まで幅広く指標生物が見つかりました。



カワナナ類



ハグロトンボのヤゴ



採取した水生生物を確認しながら、指標生物を特定し、記録を取ります

子どもたちが実際に自分の手で川に生息する生き物を採取し、調査することで、身近な自然環境における多様な生き物の存在や、水質と生き物の関係に目を向け、環境保全への関心を深めていくきっかけになることを期待しています。

川をはじめ、森や農地などの自然環境は、市民の日常生活や事業者の経済活動とも密接に関係していることを意識し、市民、事業者の一人ひとりが暮らしや仕事の中で意識して行動することが大切です。

令和7年6月1日
オープン！

もう行きましたか？『こまき山イーストパーク』



「シンボルロード」沿いの旧図書館跡地が、小牧山を眺望できる緑の景観を維持しつつ、市民及び来訪者の憩いの場として生まれ変わりました。

環境や街並みに配慮し、ユニバーサルデザインを取り入れ、人にも優しい地域に調和した公園です。



公園の様子



ソメイヨシノの挿し木

公園には市制70周年記念事業として小牧山東公園開園記念植樹「ソメイヨシノ」が植えられています。このソメイヨシノは旧図書館跡地にあった素晴らしい桜を挿し木で増やし、記憶を継承しています。公園へ行ったときはぜひ探してみてください。

公園内東側～南側にかけては、多くの「紫陽花（アジサイ）」が植えられ、開花時期の異なる種々の紫陽花が楽しめるようになっています。

